

本願寺や大谷本廟において毎年、戦没者追悼法要を営んでおりますが、1981（昭和56）年以降、本願寺での法要とは別に、大戦のきっかけとなった柳条湖事件の日（9月18日）に、毎年当墓苑において「全戦没者追悼法要」をお勤めしています。

この法要は「仏説無量寿経」に説かれる「兵戈無用」（武器も軍隊も必要のない世界を）という仏さまのお心をいただき、戦争で無くなった全てのいのちを悼み、戦争のない平和な世界の実現にむけた決意を明らかにするものです。

悲惨な戦争を再び繰り返してはならないという平和への決意を確認するため私たちは今、「世のなか安穏なれ」のスローガンのもと、一人一人に何ができるかを考え、「非戦・平和」「いのちの尊さ」を訴え続けていく努力をしていかなければなりません。本法要はどなたさまもご参拝いただけます。次世代に語り伝えてゆくためにも、みなさまお誘い合わせのうえ、ご参拝く

明 石 狸

7月11日の読売新聞のコラム『編集手帳』は、次のようなでだしで始まっていた。

「山笑(わら)う春、山滴(したた)る夏、山粧(よそお)う秋、山眠(ねむ)る冬…。俳人の長谷川権さんは詠んでいる。〈山哭(な)くといふ季語よあれ原発忌〉(句集『柏餅』より)」。そして、吉田昌郎さん(元東電福島第一原子力発電所長)の死を伝え、最後に、「長谷川さんの造語であるらしい「原発忌」という言葉が、悲しくもこれほど胸に迫る人はいない。」と締めくくっている。

「原発忌」、そうなんです。3月11日は、原発のご命日なのです。亡くなられた訳ではありません。まだ、多くの人を多くの土地を巻き込んで、のた打ち回っています。しかし、原発という存在の「いのち」の姿を私たちにハッキリと示してくれた日でありました。その輝き続ける原子の火は、人には制御できない、一旦暴走を始めたら、決して拭い去ることのできない害をもたらし、自らが無害化するまで人間にはなすすべもないという事実を思い出させてくれた。

ご命日は大切にさせていただきます。7月27日は「宗善忌」、

宗門として恒久平和への願いを新たにするため、本法要にて「平和宣言」を行い、「平和の鐘」を撞きます。

「讚^{さんぶつげ}仏^{ぶつ}偈^げ」に「響^こ流^う十^{じゅう}方^{ぽう}」とお示しのように、仏の教えが十方に響き渡ることの願いから、寺院において仏法を伝える大切なものとされる鐘の響きと、力強い「平和宣言」によって宗門が一体となり、平和の誓いを新たにします。

樹覺寺も、毎年仏教壮年会の方々のお力により、婦人会もご協力くださり、バスにてまとまってお参りいたしております。今年は参拝の後、NHK放送センターを見学してきます。

今年はことのほか、人間が決めた国境付近の緊張が高まり、きな臭い論争がマスコミで伝えられています。この時機だから、人としての基本に返り心して、今お預かりしている大切な地球を、国を世界を、次の世代の人々に、子ども達に伝えてゆく努力をしなければなりません。

戦争の悲惨さを経験してきた方々がだんだん少なくなり、戦争を知らない私たちが非戦・平和の意をつなぎ伝えていかねばなりません。心ひとつに、ご一緒に参拝いたしましょう、次世代へ平和な世が願い引き継ぎますように。

(安らかに眠ってられないでしょ) しっかりと見ていてください

じじ ばば まご まご
爺 婆 孫 孫

歳とともに、感受性が衰えてくる。これは止むを得ないことなのであろうか。

だんだん横着になってきて、物事を見切ったような錯覚に陥り、そんなことは当然だと嘯き、喜ばなくなってきた。「仏の示したもう所の」喜ぶべきことを喜ばなく、喜ばな



くなってきた。

世の中「パワースポット」??ブームらしいけど、誰が言い出した、そんな勝手なことを。

生まれて1年半の若い世代の感性に驚き、学ばしてもらおう。



あけし あれこれ

ヘクソカズラ (屁糞葛)



梅雨の頃から夏の終わり頃まで、抜いても抜いても他の草木に絡まり付いて伸びてくる生命力の強い草、見つけると他の植物ががんにじがらめになってしまうので抜くのですが、たまに草木を見る時間が無くて、蕾みをつけ可愛い花が咲いています。



その可愛い花を見てしまうと取ってしまうのが可愛そうになって、ちょっと花を楽しませてもらおうかなとなってしまう。独特の匂いのする草ですけど、花は小さくて、とっても愛らしいんですね。

ヘクソカズラ (屁糞葛) アカネ科 多年草

別名 ヤイトバナ (灸花) サオトメバナ (早乙女葛)

日本を含むアジア東南部原産。やぶや林地などに自生し、葉は長卵形で先端がとがり、対生する。つるは伸びて他物にからみつく。7月から9月ごろ、筒形で外側が白色、内側が紅紫色の小さな花をつける。灸花とは、火をつけ



たもぐさのように見えるのでこの名がつけられたらしい。

名のごとく、茎や葉は触ると独特の匂いがするが、よくまあ、この字をあてて名が付けられたものだと思う。

しかし、もう一つの名、早乙女葛はこの花の可憐さ、愛らしさそのもの。

草花も人も“みんなちがって みんないい”。